

ハンブルク市内自転車小売店調査

調査実施日：平成22年3月11日（木）

訪問地域：ハンブルグ市内中心部

1. 自転車小売店調査

調査店舗①

訪問した小売店は、シティ車 30 台、トレッキング車 50 台及びスコットのスポーツ車 30 台程の中規模店でカーボンフレームなどの高級スポーツ車は見当たらず、電動アシスト自転車もなかった。訪問時は女性客が持ち込んだシティ車を修理中で、多忙な様子であり短時間の訪問にとどめた。



調査店舗①



店内の整備場



トレッキング車、シティ車が中心



調査店舗②

次に訪問したのは、ロードレーサーを中心にした高級スポーツ車専門店です。ピアンキ、コルナゴ、LOOK 等が 30 台程、中心価格帯は 2,000～3,000 ユーロ (254,000～381,000 円) と高額な商品が多く展示されていた。更に 7,000 ユーロ (889,000 円) のカーボンフレーム車も展示されていた。その一方でチェッカーピッグやベルガモントの 500～700 ユーロ (63,500～88,900

円)の MTB やトレッキング車も 10 台程展示されていた。更に部品、付属品も揃っていたが、中でもカンパニョーロの部品やウエア類が充実していた。

なお、訪問時には 5 台のロードレーサーが売却済で顧客への引き渡しを待っており、まだ本格的なシーズン前の冬季にも係らず、2,000 ユーロ (254,000 円) 前後の高額な自転車が売れていることに驚きを覚えた。店主は、金融危機による経済不況でも売り上げには殆ど影響がなく、周辺地域の高級スポーツ車需要は堅調であると述べていた。



調査店舗②



売却済の自転車



高額なロードレーサーが中心



調査店舗③

続いての店舗は、MTB やロードレーサー等のスポーツ車は、idwork、シンプロン等を中心に 50 台、シティ車とトレッキング車は、ステッペンウルフ、ガゼレ、R&M を中心に 50 台程展示されていた。他 BMX やシングルレーサーおよびリカンベントなども展示されており車種が豊富である印象を受けた。電動アシスト自転車は、扱いを始めたばかりで R&M とガゼレがそれぞれ 1 台で計 2 台で、取り扱い実績のあるブランドから選んだが、特に R&M の品質に信頼を寄せていた。



店内の様子



シティ車と電動アシスト車（左；ガゼレ、右：R&M）

調査店舗④

続いてはフェルトのスポーツ車をメインに店内に 30 台程展示されている小型店で電動アシスト自転車の扱いは無かった。スポーツ車を中心に技術力を売りにしている店舗で、地下整備場での作業の様子も見学させてもらった。



調査店舗④



地下の整備場



店内の様子

調査店舗⑤

次の店舗は看板のとおり 1,000 台余の展示数を誇る大型店舗でシティ車 200 台、トレッキング車 300 台、MTB300 台、幼児車と子供車 300 台程が並んでいた。主要ブランドは、ヘラクレス、ウィノーラで特にヘラクレスの販売価格帯は、300~700 ユーロ (38,100~88,900 円) であり、中には 200 ユーロ (25,400 円) 程度のものもあった。専門店向けの同ブランド車をこのような値段で販売できるのか尋ねたところ、大量一括仕入れを理由に挙げていた。



調査店舗⑤



電動アシスト自転車



店内に並べられた多くの自転車



求めやすい価格をアピール



部品類も充実

なお、電動アシスト自転車は30台もの在庫を数え、同店は6年も前から同車種の取り扱いを始めており、ハンブルクで一番の取り扱い実績を誇っていた。また、店舗の壁にも大きく電動アシスト自転車を扱っている旨が掲示されており、同店がいかに力を入れているかがわかった。

2. まとめ

ドイツ第二の都市であるハンブルクでは、電動アシスト自転車の販売は始まったばかりで、店によって熱意や状況に差があり、ブームとまでは言えない状況である。また、総じてフレームカラーは黒の人气が高く、黒フレーム車が各店舗で多く見られた。カラフルなシティ車、トレッキング車が立ち並ぶミュンヘン、派手なスポーツ車が豊富に揃うシュトゥットガルト等の南部地域との消費者嗜好の違いは大変に興味深い。

なお、昨年7月より開始された市レンタサイクル「StadtRAD Hamburg」も至る所で見かけ、同市ではスポーツ車より移動手段としてのシティ車、トレッキング車の需要がより高いことが伺えた。



StadtRAD Hamburg



貸出申し込み機

以上



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

